

## 家計の近視眼的思考と出産・婚姻の選択

東京福祉大学 土村宜明

東京福祉大学 保原伸弘

本研究の主な目的は、家計の近視眼的思考が出産行動に影響しているかを検討し、「現代の個人や家計にとって、子どもは恩恵とみなされているか、または負担とみなされているか」を明らかにすることである。研究目的に応じたアンケート調査を実施し、その個票データを用いて出産・婚姻の選択を実証的に分析した。

主な結果は、時間割引率が出産に与える効果について、現時点から近い将来にかけての割引率ではなく、将来時点の割引率が小さいほど出産確率が高まるというものである。この結果は、近視眼的な視点から出産行動を考えるほど、出産行動を選択しない傾向があることを示している。思考が近視眼的ではなく、長期的視野にもとづいているほど、子ども の存在を高く評価し、それが出産行動に結びついていることがわかる。また、時間割引率が婚姻に影響しないことも確認でき、婚姻の要因は個人や家計の属性であることがわかった。男性であることはマイナスに有意、収入はプラスに有意の結果が得られ、男性は女性よりも晩婚化や未婚化が進んでおり、この結果はその現れだと言える。